

歴史とあゆみ

釧路濃縮100%！釧路市立博物館

● 釧路市の歴史（寛政～昭和）

寛政（1789-1801）

- 11年 <旧釧路市> 幕府の直接経営となり釧路川口にクスリ会所・旅宿所・酒造所が設けられる。
- <旧音別町> 幕府は、尺別に通行屋(旅宿所)を設ける。

文化（1804-1817）

- 元年 <旧阿寒町> 阿寒アイヌの居住について文献に出る。

安政（1854-1860）

- 2年 <旧釧路市> 前の年箱館(函館)が開港場となり、この年から幕府は再びこの地を直接経営する。本州から漁場へ働きにくる人はますます多くなり、アイヌ人口は減り始める。

明治（1868-1912）

- 2年 <旧釧路市> 蝦夷地は北海道、クスリは釧路と改称され、釧路国釧路郡の名が定まる。
- <旧阿寒町> 釧路国阿寒郡の名称確定、阿寒郡は兵部省の直轄下に入る。
- <旧音別町> 音別は釧路国白糠郡に属す。
- 17年 <旧釧路市> 鳥取県旧土族が移住し、鳥取村が設けられる。
- 20年 <旧釧路市> 当時の春鳥の石炭を掘り始める。
- 22年 <旧阿寒町> 内地からの移住始まる。
- 30年 <旧阿寒町> 阿寒湖で「マリモ」発見。
- 31年 <旧音別町> 直別原野から入植者の入地がはじまる。
- 33年 <旧釧路市> 北海道一級町村制が施行され釧路町(人口10,309人)が誕生する。道内初の製紙工場(前田製紙)ができる。初代幣舞橋が国費でかけられる。
- 34年 <旧釧路市> 釧路－白糠間に鉄道が開通する。(明治40年には旭川経由で函館まで開通)
- 36年 <旧音別町> 官設鉄道釧路線が音別まで開通。音別駅ができ、営業を開始する。
- 39年 <旧阿寒町> 前田正名阿寒湖畔に入り開発に着手。
- 42年 <旧釧路市> 釧路に近代港湾を建設する予算が帝国議会を通過し、港湾修築工事が始まる。(釧路は北海道東部の鉄道・汽船輸送の結節点となる)

大正（1912-1926）

- 4年 <旧釧路市> マグロの水揚げが盛んで、東京へ出荷される。
- 7年 <旧音別町> 尺別炭砦が開坑。
- 8年 <旧音別町> 二級町村制が敷かれ、尺別村役場となる。
- 9年 <旧釧路市> 北海道区制が施行され、釧路区(人口39,392人)が誕生する。この時釧路村を分村する。太平洋炭礦が開業し、富士製紙は鳥取の新工場操業を始める。

- 9年 <旧釧路市> 東北・北海道に長雨があり、釧路川・阿寒川が氾濫して大洪水となる。(釧路川に合流していた阿寒川は分離して独立した河川となる)
- <旧阿寒町> 北海炭砦株式会社(雄別炭砦株式会社)創業。
- 10年 <旧阿寒町> マリモが天然記念物に指定。
- 11年 <旧釧路市> 市制が施行され、釧路市が誕生する。(人口42,673人)
- <旧音別町> 尺別村が音別村に改称。
- 12年 <旧阿寒町> 2級町村制施行。
- 14年 <旧釧路市> 四代目幣舞橋を永久橋とする工事が始まる。(完成は昭和3年)

昭和（1926-1989）

- 9年 <旧阿寒町> 阿寒国立公園指定。
- 18年 <旧釧路市> 鳥取村に町制が施行され、鳥取町が誕生する。
- <旧音別町> 1・2級町村制が廃止され、北海道指定村となる。
- 19年 <旧音別町> 音別炭砦・尺別炭砦が休坑。
- 21年 <旧阿寒町> 雄別炭砦三菱から分離。
- <旧音別町> 尺別炭砦が復活。
- 24年 <旧釧路市> 釧路市と鳥取町及び白糠町の一部が合併。(人口85,180人)北海道学芸大学釧路分校(現北海道教育大釧路校)開学。
- 27年 <共通> タンチョウが国の特別天然記念物となる。
- <旧阿寒町> 阿寒湖のマリモが国の特別天然記念物となる。
- 32年 <旧阿寒町> 町制施行。阿寒町となる。
- 34年 <旧釧路市> 本州製紙釧路工場が操業開始。
- <旧音別町> 町制施行。音別町となる。
- 35年 <旧釧路市> 釧路空港が完成、釧路－帯広－札幌線開設。
- 39年 <旧釧路市> 釧路女子短期大学(現釧路短期大学)開学。
- 40年 <旧釧路市> 国立釧路高等工業専門学校開学。
- 44年 <旧釧路市> 魚の水揚量、全国一を記録する。
- 45年 <旧阿寒町> 雄別炭砦閉山。
- <旧音別町> 尺別炭砦閉山。
- 50年 <旧釧路市> 国勢調査で市の人口が20万人を超える。
- 51年 <旧釧路市> 五代目幣舞橋が完成し、翌年「道東の四季像」除幕。
- 52年 <旧阿寒町> タンチョウ観察センターオープン。
- 53年 <旧阿寒町> マリモ展示観察センターオープン。
- 59年 <旧釧路市> たんちょう国体(冬期スケート競技会)開催。
- 62年 <旧釧路市> 釧路湿原が28番目の国立公園となる。
- 63年 <共通> 釧路公立大学開学。



釧路が発祥の地「炉端焼き」

● 釧路市の歴史（平成～）

平成（1989-2019）

- 元年 <旧釧路市> 釧路フィッシャーメンズワーフがオープン。
- 2年 <旧釧路市> スイスの第4回ラムサール条約締約国会議で、第5回会議(平成5年)を釧路市開催と決定。
- 4年 <旧音別町> 音別町ふれあい図書館新築落成。
- 5年 <共通> 釧路沖地震。
<旧釧路市> 第5回ラムサール条約締約国会議開催。
- 6年 <共通> 北海道東方沖地震。
<旧釧路市> 国際会議観光都市認定。
- 7年 <旧釧路市> 地方拠点都市地域指定。
シマフクロウの人工増殖に世界で初めて成功。
- 8年 <旧阿寒町> マリモ展示観察センター(トーラサンペ)リニューアル。国際ツルセンター(グルス)新築落成。
- 9年 <旧釧路市> 第52回くしろ湿原国体(冬季スケート大会)開催。
振子式特急「スーパーおおぞら」が釧路・札幌間で運行を開始。
- 13年 <旧釧路市> 釧路川名称復活。(「旧釧路川」から「釧路川」へ)
- 14年 <旧釧路市> 釧路港西港第4埠頭一部供用開始。(道東初の14m岸壁)
釧路工業技術センター開設。
<共通> 十勝沖地震発生。
- 16年 <旧釧路市> 市民活動センター「わっと」オープン。
- 17年 <共通> 北海道横断自動車道(本別～釧路間)の工事着工。
☆釧路市、阿寒町、音別町が合併し、新生「釧路市」が誕生する。
釧路市子ども遊学館オープン。
- 18年 第1回日中韓観光大臣会合が阿寒湖温泉で開催される。
- 19年 西消防署音別支署・音別町コミュニティセンターがオープン。

- 20年 千代ノ浦マリパークがオープン。
総合体育館 湿原の風アリーナ釧路がオープン。
- 21年 阿寒湖まりむ館がオープン。
ドクターヘリの運航が開始。
第65回国民体育大会冬季大会(スケート競技会・アイスホッケー競技会)開催。
- 22年 小型惑星探査機はやぶさのカプセルが展示される。
釧路市事業仕分けを実施。
- 23年 釧路港が国際バルク戦略港湾に選定される。
釧路市動物園で飼育されていた2羽のタンチョウが、台北市動物園に無償貸与される。
東北地方太平洋沖地震発生。
- 24年 阿寒湖アイヌシアター「イコロ」がオープン。
台湾の復興航空による国際定期便が就航。
- 25年 エア・ドゥ釧路ー羽田線を開設。
市民の寄付により釧路市動物園に4年ぶりにキリンを展示。
- 26年 釧路市連合町内会と釧路市との連携基本協定を締結。
武修館高校、釧路勢35年ぶりの甲子園出場。
音別町行政センター新庁舎落成。
- 27年 釧路市役所防災庁舎落成。
- 28年 道東自動車道 白糖IC～阿寒IC間開通。
- 29年 「阿寒国立公園」から「阿寒摩周国立公園」に名称が変更される。
- 30年 Peach釧路ー大阪(関西)線を開設。
国際バルク戦略港湾の施設整備が完了。
- 31年 国際バルク戦略港湾釧路港国際物流ターミナルの運用が開始される。

令和（2019- ）

- 元年 台北市立動物園に天然マリモを貸与
- 2年 Peach釧路ー東京(成田)線を開設。
- 4年 ルート38音別館おんぼーとがオープン。



【市章】

2005年(平成17年)釧路市、阿寒町、音別町協議

外側の星は北極星を、内側の円はクシロを意味する腕輪を表し、北海道を象徴する北極星に囲まれ、釧路市が栄えることを祈って作られました。